

製品名: HDAC2 (7L9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe11942**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:500,FC 1:50-1:200,IP 1:50-1:100
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	HDAC2
別名	HD2; HDAC2; Histone deacetylase 2; RPD3; transcriptional regulator homolog RPD3; YAF1; YY1-associated factor 1;
遺伝子 ID	3066.0
SwissProt ID	Q92769
免疫原	ヒト HDAC2 の合成ペプチド

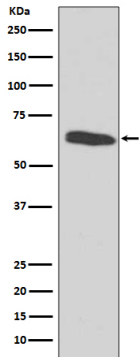
背景

HAT 複合体は、配列特異的な活性化タンパク質と相互作用し、特定の遺伝子を標的とします。ヒストンに加えて、HAT は非ヒストンタンパク質をアセチル化できるため、これらの酵素には複数の役割があることが示唆されています。一方、ヒストンの脱アセチル化は「閉じた」クロマチン構造を促進し、典型的には遺伝子活性の抑制につながります。コアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の N 末端リジン残基の脱アセチル化を担います。ヒストンの脱アセチル化はエピジェネティック抑制の標識となり、転写制御、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストン脱アセチル化酵素は、巨大な多タンパク質複合体の形成を介して作用します。MAD、SIN3、YY1、N-COR と会合することで転写抑制複合体を形成します。DNA 複製の S 期後期において、DNMT1、DMAP1、PCNA、CAF1 からなるもう一つの転写抑制因子複合体において DNMT1 と相互作用する。TSHZ3 を脱アセチル化し、その転写抑制活性を制御する。RCOR/GFI/KDM1A/HDAC 複合体の構成要素であり、ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) のリクルートメントを介して、多系統血球の発達に関与する多くの遺伝子の発現を抑制する。CRY1 によるヒストン脱アセチル化を介して、PER1 などの概日リズム標的遺伝子の転写抑制に関与している可能性がある。MTA1 を介した TFF1 および CDKN1A の転写共抑制にも関与する。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の HDAC2 発現のウェスタン ブロット分析。